

巻 頭 言

副支部長 高橋尚人 (札幌市立大学 AIT センター)

今年度の支部研究発表会は、昨年度に続いてオンライン開催となりました。支部研究発表会を現地開催とするか、それともオンライン開催とするのか、支部理事会でも時間をかけて話し合いました。会場の手配や皆様へのアナウンス等の都合上、2022年3月24日の理事会でオンライン開催することと決定しました。振り返りますと、「まん延防止等重点措置」は2022年3月21日をもって終了したのですが、同日の北海道での新型コロナウイルス感染症（以下、「コロナ」と略す）の日陽性者数は1,009人でした。2022年2月10日の北海道の日陽性者数4,097人と比べると大幅に減ったものの、日陽性者数が千人を超える日が続く状況でした。支部研究発表会が開催される5月頃のコロナの状況は全く予想できない中での決定でした。2022年には、対面で開催される学術集会や展示会なども見られるようになりましたが、運営に携わる方々は、開催方法の決定、コロナの流行状況に応じた運営方法の変更など様々なシチュエーションを想定し、模索しながら取り組まれていることと思います。

さて、コロナの流行により、私たちの生活様式や働き方は大きく変化しました。働き方では、従来のような対面で打合せ等を行うことが困難になったことから、リモート会議などができるコミュニケーションツールの利用機会が大幅に増えました。令和3年版情報通信白書によると、マイクロソフト社が提供する Microsoft Teams の日次ユーザ数は、2020年3月11日から1週間で1,200万人増加したそうです。また、Zoom ビデオコミュニケーションズが提供する Web 会議サービス Zoom についても、2020年4月3日からの19日間で1億人のアクティブユーザの増加があったそうです。リモート会議は、会議の日程調整が容易になり、移動時間が不要になるなど仕事の効率が良くなる面がある一方、ディスカッションを伴う打ち合わせでは、参加者の表情・感情を読み取りにくかったり、会話の間を取るのが難しくなりました。リモート会議の頻度が多くなり、リモートでのディスカッションに慣れてきた気もしますが、依然としてもどかしく感じる場面もあります。研究発表会では、現地参加する日程の確保ができないが、リモートでの聴講・発表が可能な場合があるなど、オンライン開催にすることで参加しやすくなる方もいらっしゃる一方、聴講者の反応を読み取りながらの発表や質疑応答、セッション後にいただくアドバイスなど、対面開催の方が優れていると考えられる面もあります。

今後、コロナの状況がどう推移していくのか予想がつかませんが、対面での打ち合わせや大人数で集まることが気兼ねなくできるようになり、オンラインの良さ、対面の良さ、両方の長所を活かす働き方が当たり前のようにできる日が来ることを切に願っています。

2022 年度日本雪氷学会北海道支部研究発表会発表論文 目次

【積雪】

1. 2021-2022 年冬期の札幌都市圏における大雪について (その 1) 5
～ 札幌圏の降雪の特徴,本当に記録的な大雪だったのか ～
丹治 和博, 小松 麻美 (一般財団法人日本気象協会 北海道支社),
尾関 俊浩 (北海道教育大学 札幌校),
松岡 直基 (株式会社北海道気象技術センター),
金田 安弘 (北海道開発技術センター),
金村 直俊 (札幌総合情報センター株式会社)
2. 2021-2022 年冬期の札幌都市圏における大雪について (その 2) 9
～ 積雪断面観測 (札幌都市圏と道央・道東・道北域との比較) ～
白川 龍生 (北見工業大学),
尾関 俊浩 (北海道教育大学札幌校),
高橋 浩司 (北見工業大学・株式会社構研エンジニアリング),
細川 和彦 (北海道科学大学),
大鐘 卓哉 (小樽市総合博物館)
3. 2021-2022 年冬期の札幌都市圏における大雪について (その 3) 13
～ 大雪をもたらした気象の特徴 ～
松岡 直基 (日本雪氷学会 北海道支部・株式会社北海道気象技術センター),
中林 宏典 (株式会社北海道気象技術センター),
丹治 和博, 小松 麻美 (日本雪氷学会 北海道支部・一般財団法人日本気象協会
北海道支社),
尾関 俊浩 (日本雪氷学会 北海道支部・北海道教育大学 札幌校),
白川 龍生 (日本雪氷学会 北海道支部・北見工業大学),
金田 安弘 (日本雪氷学会 北海道支部・北海道開発技術センター)
4. 2021-2022 年冬期の札幌都市圏での大雪について (その 4) 17
～ 大雪に対する高速道路管理者の対応報告 ～
小倉 美紀 (株式会社ネクスコ・エンジニアリング北海道・株式会社ユーシエル),
森脇 豊一 (東日本高速道路株式会社),
伊藤 俊明 (株式会社ネクスコ・エンジニアリング北海道)
5. 2021-2022 年冬期の札幌都市圏における大雪について (その 5) 21
～ 札幌市における大雪下にでの冬道転倒による救急搬送状況 ～
永田 泰浩, 金田 安弘 (一般社団法人 北海道開発技術センター)

6. 2021-2022年冬期の札幌都市圏における大雪について (その6) 23
～ 屋根雪事故の状況と住宅の屋根雪観測調査 ～
小西 信義, 大川戸 貴浩, 金田 安弘 (北海道開発技術センター),
千葉 隆弘 (北海道科学大学工学部建築学科),
堤 拓哉 (北海道立総合研究機構 建築研究本部)

【氷河・氷床】

7. グリーンランド北西部カナック氷帽における 2012-2021年の表面質量収支 27
渡邊 果歩, 近藤 研 (北海道大学 低温科学研究所・北海道大学 環境科学院),
杉山 慎 (北海道大学 低温科学研究所)
8. 南極ラングホブデ氷河における 2021/22年の熱水掘削 31
杉山 慎, 箕輪 昌紘 (北海道大学 低温科学研究所),
近藤 研 (北海道大学 低温科学研究所・北海道大学 環境科学院)
9. 東南極ラングホブデ氷河における底面滑りの直接観測 35
近藤 研 (北海道大学 低温科学研究所・北海道大学 環境科学院),
杉山 慎, 箕輪 昌紘 (北海道大学 低温科学研究所)
10. 利尻島ヤムナイ沢雪渓における 2021年現地調査報告 39
波多 俊太郎, 近藤 研, Wang Yefan, 渡邊 果歩 (北海道大学 低温科学研究所
・北海道大学大学院 環境科学院),
杉山 慎, 箕輪 昌紘, 日下 稜 (北海道大学 低温科学研究所)

【雪崩・海水・湖水・生活・結晶・バイドレート】

11. 雪氷面の特徴が与える UAV-SfM 測量への影響 43
大内 優希 (北見工業大学大学院 工学研究科),
館山 一孝, 渡邊 達也 (北見工業大学 地球環境工学科)
12. アザラシ毛皮シールとナイロンシールの滑り抵抗試験 47
日下 稜, 杉山 慎 (北海道大学 低温科学研究所),
原田 亜紀 (NPO 法人北海道自然エネルギー研究会)
13. 一酸化炭素・アルゴン混合ガスハイドレートの水和数測定 51
矢作 大輔, 八久保 晶弘 (北見工業大学),
竹谷 敏 (産業技術総合研究所)

14. ヘリウム混合系ガスハイドレート中のヘリウム濃度の温度・結晶構造依存性 55
森谷 優希, 八久保 晶弘 (北見工業大学),
竹谷 敏 (産業技術総合研究所)

【雪氷気象】

15. 南極圏における各季節の水蒸気量の長期変動とその影響 59
吉田 悠嗣, 佐藤 和敏, 舘山 一孝 (北見工業大学)
16. 定点カメラを用いた斜里沖に発生する蜃気楼の自動判別手法の検討 63
今泉 賢斗 (北見工業大学大学院 工学研究科),
舘山 一孝 (北見工業大学 地球環境工学),
佐藤 トモ子 (知床・蜃気楼幻氷研究会),
石原 宙 (北海道立オホーツク流氷科学センター)
17. 北海道におけるダイヤモンドダストの発生頻度とその将来予測 67
長谷川 祥樹, 山口 高志, 濱原 和広, 鈴木 啓明, 野口 泉
(北海道立総合研究機構 エネルギー・環境・地質研究所)
18. オホーツク地域における大雪時の積雪特性とその要因 71
～ 2014/15 年冬期の事例解析 ～
石井 日菜 (北見工業大学大学院 工学研究科),
白川 龍生 (北見工業大学 工学部 地球環境工学科)

【凍土・周氷河地形】

19. 羊蹄山山頂部における UAV 写真測量を用いた周氷河地形分布の把握 75
飯田 幹太 (北海道大学 大学院環境科学院),
白岩 孝行, 曾根 敏雄 (北海道大学 低温科学研究所)
20. 北海道置戸町鹿ノ子ダム左岸の風穴地における地温変化 77
曾根 敏雄 (北海道大学 低温科学研究所)
21. 北海道における土壌凍結深の分布 79
原田 敏一郎 (宮城大学 食産業学群),
吉川 謙二 (アラスカ大学フェアバンクス校),
曾根 敏雄 (北海道大学 低温科学研究所)